

|        |  |
|--------|--|
| 目指す学校像 | ○生徒、保護者、地域の方々から信頼され、きれいで安全・安心な学校<br>○生徒が学ぶ喜びを味わい、生きる喜びを実感する教育活動を展開する学校   |
| 重点目標   | 1 深い学びを実現するためのICT活用、及び生徒が学びにおいてWell-beingを味わえる授業改善<br>2 コミュニティ・スクールとしてのビジョン・方策の共有と行動の具体化<br>3 集金業務の口座振替システム構築による学校事務の効率化<br>4 一人ひとりが力を発揮し、教職員自身も Well-being を味わえる学校にするための研修の充実 |

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

|     |   |              |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上)  |
|     | B | 概ね達成 (6割以上)  |
|     | C | 変化の兆し (4割以上) |
|     | D | 不十分 (4割未満)   |

| 学校自己評価 |  |   |  |  |           |     | 学校運営協議会による評価 |                     |
|--------|--|---|--|--|-----------|-----|--------------|---------------------|
| 年度目標   |  |   | 年度評価   |  |           |     | 実施日令和 年 月 日  |                     |
| 番号     | 現状と課題  | 評価項目  | 具体的方策  | 方策の評価指標  | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策  | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 |
| 1      | (現状)<br>○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、ほぼ全国、市平均くらいの結果である。<br>○日頃の学習の様子から、調べたことを整理してまとめる活動に意欲的な生徒が多い。一方、プレゼンテーションなど発信する活動には消極的な様子もある。<br>(課題)<br>○「よい授業」アンケート結果からは、アクティブラーニングに関連する項目に課題がみられた。<br>○「知識・技能」よりも、「思考・判断・表現」の項目に苦手意識を持つ生徒が多く、授業で得た知識を活用して考えを深め、表現していくようにすることが課題である。 | ICT機器を活用したさいたま市「アクティブラーニング」型授業の実施による、深い学びの実現<br><br>個別最適な学びを実現し、生徒一人ひとりが学ぶ楽しさを実感できる授業改善 | ①ミライシードのオクリンクや teams 等を活用して、生徒が探求した結果の発表や共有化を図る機会を積極的に設ける。<br>②対話的な学びによる協働解決を踏まえた、教師による学びの価値付けを確実にし、振り返りや評価の時間を確保し、学びの深化を図る。<br><br>①「スタディサプリ」や課題克服応援シートを活用し、知識技能の確実な定着を図る。<br>②生徒が達成感を味わえる課題設定の工夫を行い、自力で取り組む時間と協働的に取り組む時間を確保する。 | ①ICTを活用した授業を全教員が年間を通じて1回以上公開し、教職員同士で研鑽を積むことができたか。<br>②よい授業のアンケートにおける振り返りや評価の時間の確保に関する項目で、肯定的な回答の割合が80%以上となったか。<br><br>①市学力検査や学習状況調査における基礎学力の定着を図る設問の正答率の向上(前回調査比)がみられたか。<br>②学校評価の生徒アンケートにおける「授業で『わかった』『できた』という満足感を感じていますか」の項目の肯定的回答が80%以上となったか。 |           |     |              |                     |
| 2      | (現状)<br>○令和3年度に学校運営協議会を立ち上げ、目指す生徒像を「進んで行動する生徒」とした。学校と地域で共有した目標やビジョンに向かって、それぞれの立場で協力し、実践することとした。<br>(課題)<br>○コロナ禍の中、行事等の縮減が続き、子どもたちが地域中で活動する機会が減少していた。<br>○目指す生徒像の実現に向けて熟議した内容を、学校・家庭・地域でしっかりと共有し、具体的方策を定め、行動していく。  | 目指す春野中の生徒の姿を地域全体で共有するための広報活動の拡充<br><br>ボランティア活動参加機会の拡充                                  | ①学校だけでなく、学校運営協議会だけでなく活用し、目指す生徒像を広く家庭、地域と共有できるようにする。<br>②学校行事等について広く周知するため、学校ホームページを活用していく。<br><br>①小学校との連携を生かしたあいさつ運動などを展開し、子どもたちが主体的に動く機会を設定する。<br>②地域でのクリーン活動等、地域の一員としての思いをもてる機会を設定する。   | ①②学校評価の保護者アンケートにおける「お子さんは、自ら進んで、学校教育目標を意識して生活していますか。」「学校をより知っていただくための、学校行事等への案内が適切ですか」の項目で、肯定的回答が80%以上となったか。<br><br>①②年間を通じて、あいさつ運動をはじめとした、生徒が主体的に行動する機会設定が3つ以上できたか。<br>②年間を通じて、生徒が地域の一員としての思いをもてるクリーン活動等の機会設定が3つ以上できたか。                         |           |     |              |                     |
| 3      | (現状)<br>○月1回、現金による集金を行っている。生徒が現金を持参しており紛失等のリスクがある。<br>○学年の教員が回収、集計を行うシステムであり、本来業務ではない。<br>○小銭の入金には手数料がかかる。<br>(課題)<br>○紛失等のリスクに加え、小銭入金に伴う手数料負担<br>○教員の負担が大きく、業務改善の観点からも課題である。  | 在校生(現1・2年生)に向けた口座振替システムの構築<br><br>令和5年度新生(現小6年生)に向けた口座振替システムの構築                         | ①校内にプロジェクトチームを立ち上げ、金融機関との協議を行う。<br>②在校生保護者に向けた通知を行い、口座情報の入力作業など準備作業を実施する。<br>③新生保護者会での説明を行い、準備作業を実施する。   | ①②③プロジェクトチームを適切に立ち上げ、在校生及び新生の保護者に過度の負担をかけることなく、円滑に口座振替システムへの移行ができたか。   |           |     |              |                     |
| 4      | (現状)<br>○エバンジェリストを中心に ICT 活用に向けての研修を積み重ねてきている。<br>○指導訪問などを通じて、授業でタブレットを活用することには慣れてきている。<br>(課題)<br>○学びを深めるための ICT 活用という点で、教員間で取組の差が見られる。<br>○エバンジェリスト等、一部の教員に情報機器準備などの業務が集中する傾向がみられる。  | 校内研修を通じて、全ての教員が苦手意識をもつことなく ICT 活用に取り組む、生徒の学びの深化につながる授業改善                                | ①ICT 活用方法についてのエバンジェリストを中心とした研修を実施する。<br>②相互授業参観による ICT 有効活用の実践例の共有と取組への適切な評価を行う。<br>③生徒用タブレットや情報機器の管理のルールを明確にし、誰もが同じように使用できるように環境整備をする。  | ①ICT活用についての研修を、年間を通じて3回以上実施できたか。<br>②ICTを活用した授業を全教員が年間を通じて1回以上公開し、教職員同士で研鑽を積むことができたか。<br>③生徒用タブレットや情報機器の管理のルールを策定し、全教職員で共有することができたか。   |           |     |              |                     |